

鹿児島県加計呂麻島で発見された巨大な 2 個体のエガイ (二枚貝類, フネガイ科) の生貝

久保田 信*

Shin KUBOTA: Two giant living specimens of *Barbatia* (*Abarbatia*) *lima* (Bivalvia, Arcidae) found at Kakeroma Island, Kagoshima Prefecture, Japan

エガイ *Barbatia* (*Abarbatia*) *lima* REEVE は殻長 55 mm に達するフネガイ科 Arcidae の普通種で、房総半島以南、インド・太平洋に広く分布し、潮間帯から浅海(水深約 20 m まで)の岩礁や造礁性サンゴの隙間に足糸で付着している(波部, 1973, 1977, 1983; アボット・ダンス, 1982; 松隈, 1989; 奥谷, 1994)。筆者はこれまで日本各地からエガイを多数採集し観察してきたが、加計呂麻島の 2 地点で潮間帯直下に生息するイシサンゴ類から 2 個体の巨大な生貝を発見したので報告する。

エガイの巨大個体(図1)の記録

殻長 86 mm (No. 1); 66 mm (No. 2)
 殻皮 前縁と後縁に密生し茸毛状, 黒褐色
 殻の形 四辺形状
 放射肋 顆粒状だが、摩滅した部分が多い
 殻内面の色 白色
 採集場所 鹿児島県加計呂麻島諸鈍の砂浜海岸 (No. 1), 安脚場の岩礁海岸 (No. 2); 干潮線付近水深約 1 m 地点に生育する生きたハマサンゴ類の一種に水面とはほぼ垂直に開いた円筒状の穴の中にすっぽり埋もれて足糸で付着 (No. 1), 干潮線付近水深約 1 m 地点に生育する生きたイシサンゴ類の基部の隙間に足糸で付着 (No. 2)
 採集日 1999年6月1日 (No. 1); 1998年5月25日 (No. 2)
 その他 双眼実体顕微鏡で横鏡したところ外套腔内に共生生物は見られなかった

謝 辞

種の同定の確認をして下さった土田英治氏, 今回の発見の契機を与えて下さった広島大学生物生産学部の大塚

攻博士をはじめ練習船豊潮丸の郷 秋雄氏と中越和光氏および乗組員スタッフ一同の方々に感謝致します。

参 考 文 献

- アボット, R. T.・ダンス, S. P. 1982: 世界海産貝類大図鑑. 波部忠重・奥谷喬司監修・訳 (1985). p. 297. 平凡社, 東京.
 波部忠重. 1973: 新日本動物図鑑 [中], 4 版. p. 223, 北隆館, 東京.
 ————. 1977: 日本産軟体動物分類学 二枚貝綱/掘足綱. pp. 30-31. 北隆館, 東京.
 ————. 1983: 学研生物図鑑 貝Ⅱ, 初版. P. 71, p. 184. 学習研究社, 東京.
 奥谷喬司. 1994: 二枚貝類. in 奥谷喬司 編著, 海辺の生きもの (初版). 178-200, 山と溪谷社, 東京.
 松隈明彦. 1989: フネガイ目. in 奥谷喬司 編・監修, 決定版 生物大図鑑 貝類 (第2刷), 278-283, 世界文化社, 東京.

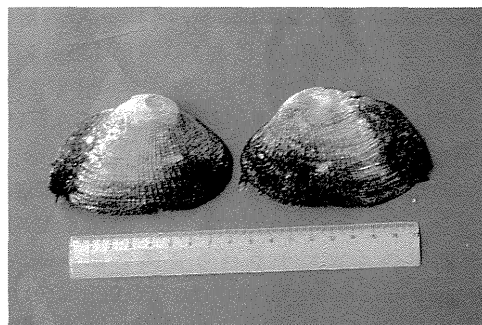


図1 鹿児島県加計呂麻島産の生きたハマサンゴの一種に付着生育していたエガイの巨大個体 (No. 1)
 Fig. 1. A giant specimen (No. 1) of *Barbatia* (*Abarbatia*) *lima* found at Kakeroma Island.

* 京都大学大学院理学研究科附属瀬戸臨海実験所 (〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町臨海) Seto Marine Biological Laboratory, Graduate School of Science, Kyoto University, Shirahama, Nishimuro, Wakayama 649-2211, Japan